

生の感動に触れていたい！

非営利団体を追求して生きるNY de Volunteer Inc. (NYdV)の代表日野紀子さんが語る。



NYdV代表日野紀子

彼女と目が合った時は心の鼓動を感じた。その日マンハッタンに帰る地下鉄の中で、チャンと背でお揃いのグループ名の書いてあるTシャツを着て皆が何かをやろうとすれば必ずきちんと報われるというグループ作りをしたいと考えていた。

それは10年前のことで、その後は日々の生活に追われて8年が過ぎてしまった。

その時期に、結果的には私に時間ができたことになった。すぐに仕事に戻るよりも今まで出来なかったことを少しやってみようと思っていた矢先、私はボランティアをやりたいと思っていたがやらなかったことを思い出した。インターネットでヤブーにボランティアニューヨークと入れてみて驚いたことに凄く数の団体が出てきた。私の8年のニューヨーク生活で来たばかりの日本人よりは勝手が分かっていたが、ボランティアに関しては何をどう探していいか分からなかった。その時期に友人の寺田和美さんにコニーアイランドのエピソードを話したら、とても感動してくれて「そのグループボランティアを一緒にやろうよ。」と誘ってくれた。寺田さんは英語サイドで私は日本人に呼びかけるといふ分相を始めていった。

第一回の公開美化活動を日系の新聞が掲載をした。それはニューヨークケヤーズのスプリングクリーニングデーという3千人がニューヨークをきれいにする活動だった。それにグループ参加した。もともと寺田さんと私とで友達を誘うぐらいの軽い気持ちでしたが、ものは試しにメディアを通して誘いをかけてみると100人程の人に反応があり、その時点で40人で始めることになった。最初の活動で参加者の関心の高さに驚かされた。翌日の朝には100人程の人がメールを送ってきて「次のイベントは何ですか。」と言って来た人達と一緒に続けることになった。それが私のボランティアコミュニティを始めたきっかけです。私自身ニューヨークに将来住もうと思ったときここには安心して住める環境があるのだからこういうことを考えた。やはりそれがないように思う。そういう環境を作りたい気持ちは常にあった。第一回の活動した時に人のジャンルの広さには驚かされた。ボランティアというキーワードで人を集めることは相手を品定めし合わないでそれぞれが持っていることを共有し合う形で人が出会うボランティアはコミュニティ作りには良いと思った。

Q参加者はどのようにして集められましたか。
日系のメディアかWebsiteを通じて知って頂いています。それらの人達をメーリングリストに入れていきます。今の時点でニューヨーク在住の人で568人、英語メディアの方は95人登録して頂いています。ニューヨークの日本人が5万人とされているので100人に1人はNYdVに登録されていることになります。

Qニューヨーク地区だけが活動の範囲ですか。
大きく2つのプログラムに分かれていて1つはグループボランティア、1つは情報交換です。グループボランティアの中ではボランティア探検隊in NYとボランティアツアー-out side NYの2つに分かれています。1つはマンハッタン内で出来る体験型イベント、ツアーの部は旅行の要素とボランティア活動を組み合わせた旅。日本からのボランティア体験ツアーを企画中です。

Qボランティア活動への参加はどのような手続きを取れば良いのですか。
ボランティア活動によって多少違うが基本的には企画のお知らせはメーリングリストにて行なっています。登録は無料で簡単です。将来的には電話での受け付けも考えたい。

Qボランティア企画は参加者から募っていると聞きましたが。
皆さんボランティアには興味があるけれども経験のない人がほとんどで、何をやっていいのかわからないのが現状で今のところはスタッフの方で準備したもののなかから自分のできることを選んでもらうようにしています。アンケート結果や活動参加者の意見を反映する企画内容を実施しています。

Q:どんなきっかけでボランティアを始めましたか。
10年前の1993年10月に渡米し、日本にいる時から憧れていた波うちぎわで大きな観覧車の回っているコニーアイランドに出かけて行きました。あんなに憧れていた場所なのにそこはゴミの山でした。その時一緒にいたアメリカ人の友達に私がショックを受けているのを見て不思議そうに「なんでコニーアイランドってこんなところよ。」と言っていたが私が思っていたコニーアイランドと現実との違いに衝撃を受けてしまった。その時砂の上に横になって見たものはゴミ、ゴミ水の上にもゴミ耐え切れなくなった私は近くに落ちていたゴミ袋を拾って自分でゴミを拾い始めたのです。袋はあっという間にゴミでいっぱいになりゴミ拾いの前に捨てに行き、その繰り返しを1時間位はしていました。誰一人一緒にやってくれる人はいなかった。私は少し勇気を出して良いことをしているつもりでも反対にからかわれてしまった。そうした時私のことを見ていたスペイン語風の女性がゴミを拾い始めていた。少し離れていたのですが話ができなかったが自分のしている事を共有できたという気持ちで、一度は恨つけられたがその後少し嬉しくなってきた。

Q:トレーニングが必要な時はどうしますか。
今はまず、一度ボランティアを实际やってみよう！というのが目的でいろいろプログラムに参加している内に自分に合っているものを見つけて気に入った所で続けてもらっています。基本的にはトレーニングが必要なのはしてないが、オリエンテーションが必要な場合、例えば視覚障害者の方への基本的なサービスのやり方など最低限必要なことはします。

Q:最近された活動はどんなことでしたか。
12月21日の5th Ave.571丁目の「FAD」ジュワelry店の前でのレッドクロス企画でした。ホームレスの子供と9/11で問題をかかえている子供達のクリスマスプレゼントをする寄付を募る為に4時間ほど道行く人に呼びかけるものでした。そこで感じたことは人々の寄付に対する受け入れ方が日本と違うということで、日本とこちらの寄付文化の違いを感じました。

Q:日野さんの夢、構想はどんな事ですか。
自分の中でこだわっていることは感動を生む仕事をしたいことです。物を造っていく人の感動を見たり感動の中に自分が居たいという気持ちがあるようです。ボランティアの活動の中から人と人が助け合う「ありがとう。」と言われ「こちらこそありがとう。」というこの瞬間をコーディネートしたこの感動は作り物ではなく生の感動でこれが私の求めていたものだと思った。組織としては、アメリカの非営利団体のサポート体制は日本よりも進んでいるので、良いところをどんどん取り入れて私達NYdVのできる社会貢献の形を模索して柔軟な運営をしていきたい。そして日本の非営利団体へその経験とノウハウを還元したいと思っています。日本人にとってまだ馴染みの薄いボランティアを、まずは気軽に始めてもらい、今まで他人事だと思っていた様々な問題に対し、同じ目線で助け合う心を持つ人々の輪を広げ、各自の日常生活の一部にボランティアが自然に入り込んで、よりよい社会作りが少しづつ参加していくようになればいいなと思っています。

NYdVは気軽に気持ちよく参加できるグループです。
連絡は
<http://www.nydevolunteer.org/>
Eメール: staff@nydevolunteer.org

ca) (END) (sc)

大隅 瑞枝 医師
オオスミ ミズエ
内科 (腎臓、高血圧、一般診療)
Fay M. Ohsumi, M.D., PLLC
Internal Medicine
Nephrology / Hypertension

日本語で診療できます。
Tel: (212)288-8121
By Appointment
117-119 East 84th Street, 1B
New York, New York 10028
(between Park & Lexington Ave.)